



## 「信じる」ことの大切さ

校長 永井 有司

菊花の候、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃から本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

10月は、5年館岩自然の教室、6年修学旅行と高学年の宿泊の旅行がありました。双方ともに、学校の代表として立派な態度で過ごしていました。学校は高学年の態度でほぼ決まってくるから、そういう意味でも高学年の児童の自覚の高まりを嬉しく思います。特に6年生は、これから小学校生活の集大成でもある卒業式に向けて進んでいきます。残り5か月間の成長が楽しみです。



《乗船した遊覧船(背景は男体山)》



《館岩でのキャンプファイヤー》

さて、学校では友達同士のトラブルは日常茶飯事です。それを解決する中で成長していきますが、大人である教師がどうかかわるかによって、成長の度合いも大きく変わってくるような気がします。先日、K先生（他校の事例）という方からこのようなお話を聞きました。

同じクラスのA君とB君、A君は乱暴なところがあり、すぐに手が出てしまいます。その都度指導を受けて反省するのですが、同じことを繰り返していました。B君はA君から手を出されることが多かったのですが、忍耐強く我慢していました。ある時、B君はついに耐えられなくなって、「一回やり返さないと気が済まない」と泣きながら訴えてきたのです。隣のクラスの子だったのですが、学年主任だったので、2人の話を聞きました。長期にわたって我慢してきたB君の気持ちが痛い程分かり、説得は難しいと悩みました。A君も「自分が悪いから仕方ない」と言っているのに、A君の保護者に連絡したら、A君の保護者は「うちの子が悪いのですから、一発と言わずB君の気が済むまで殴らせてあげてください」とのこと。「ご協力をありがとうございます。でも一発だけで、絶対に怪我はさせませんので」と約束し、B君の保護者にもその旨を連絡しました。B君にも「絶対に怪我させてはダメだよ。それから殴るのは腕だけにしてね」と話し、了解を得ました。そして、やり返しの当日が来ました。A君は観念してB君の前に立ちました。見ていると、手をグーにしたB君は、その握り拳の先っぽでA君の肩付近をチョンと触りました。それだけで、「それだけでいいの？」B君は「いいです。これで許してあげます」と笑顔で返事をしました。誰も想像していなかったような素晴らしい結末でした。そのB君の素晴らしい態度には涙を流さんばかりに感激しました。B君は、自分の気持ちを先生が理解してくれたということで満足だったのかも知れません。そんな2人は中学校に行き同じサッカー部に入り、レギュラーになって県大会で活躍していました。当時を思い出して感激が何倍にもなりました。



劇的な結末ですが、実際に起きた出来事です。

学校では友達同士のトラブルの解決には、時間を要するものが多く、担当する教師は夜も眠れない程悩み、苦しむことが日常です。そんな中で、この話を聞いた私自身も感激しましたし、大いに励まされました。いつも同じように対応をしても、全てがうまくいくとはとても思えませんが、どうしてこのエピソードではハッピーエンドになったのでしょうか。きっと、対応したK先生がお互いの話をじっくりと聞き、さらにはB君を信じたことが大きかったのでしょうか。自分自身の教師生活や父親としての日々を振り返って、「どれだけ子どもを信じて見守ることができただろうか」と反省しきりです。

「トラブルの解決は大きな成長の糧になる」ことを知って、子どもたちを信じて見守るということも大切なことだと思います。子どもたちにかかわる大人であるわたしたちが、よりよき成長の支援者・協力者となれるよう連携をさらに深めてまいりたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。